

# 人権まちづくり フェスタさよう 2022

手話通訳あり

日程 ~時間等は前後することがあります~

13:00	開会行事	主催者・来賓あいさつ
13:10	表彰式	作文・標語・ポスター
13:30	人権作文朗読	上月小学校・三日月中学校
13:55	PTCA実践発表	佐用小学校PTA
14:10	講演会	演題 「虐待の淵を生き抜いて ~人にも自分にもあたらない社会をめざして~」 講師 島田妙子さん

## ■講師プロフィール



1972年神戸市北区生まれ。4歳の頃、両親の離婚で兄2人と児童養護施設に入所。7歳の時、父の再婚で家庭に復帰したが、継母と実父による壮絶な虐待が始まり、何度も命を落としかけた。現在は、関西約150園の学校・幼稚園・保育園の『思い出のアルバム』DVD・Blu-rayソフト制作会社を経営。2010年末、心の支えであった次兄が白血病で他界した。これを転機に兄の思いを引き継ぎ、本当の意味での「児童虐待の予防」にむけての自叙伝を執筆するとともに、「大人の心を助ける」講演活動を積極的に行っている。「虐待」だけでなく、「命」「愛」「子育て」「障がい」「介護」の幅広い内容により、中学生から大学生、保護者、行政職員、教員を対象に講演活動中。またその活動は、新聞やメディアに多数取り上げられ、実体験を基にした話には体験したからこそ伝えることができると定評を得ている。2019年11月NHK『クロ

### ●主催／佐用町・佐用町教育委員会・人権文化をすすめる町民運動推進会議

(自治会連合会・各地域づくり協議会・社会福祉協議会・佐用町高年クラブ・身体障害者福祉協会・手をつなぐ育成会・民生委員児童委員協議会・ボランティア連絡会・人権教育協議会・龍野人権擁護委員協議会佐用部会・佐用郡経営者協会・佐用郡PTA連合会・保育園保護者会連絡協議会)

### ●後援／神戸地方法務局龍野支局・龍野人権擁護委員協議会

## 2022年佐用町人権啓発作品 入賞者 (敬称略)

### 作文の部

2点 (学校選抜)

一人一人を大切に

古本 真央 (上月小学校6年)

幸せの意味

廣瀬 菜々美 (三日月中学校3年)

### 標語の部

7点 (応募総数450点 <一般64、小学生121、中学生265>)

助けてと 言える社会が 頼もしい

山下 廣司 (一般)

電波より 言葉で送ろう それいいね!!

伊東 和哉 (上月小学校PTA)

またあした いってくれて うれしいな

福盛 杏 (佐用小学校1年)

どうしたん 気にかけてくれる 友の声

光森 莉菜 (上月小学校6年)

おもしろい! だれが聞いても おもしろい?

三宅 優生 (上月中中学校3年)

笑顔咲く やさしい言葉を 増やしたい

松尾 実音 (三日月中学校2年)

やめようね 気づいてるのに 知らんぷり

幸田 拓哉 (三日月中学校3年)

### ポスターの部

5点 (応募総数49点 <幼保6、小学生22、中学生21>)

えがおのはなをさかせよう

南光保育園 5歳児

ありがとうで笑顔をつなぐ

蔭山 莉緒 (佐用小学校6年)

その言葉本当にだれも傷つかない?

福岡 莉子 (上月小学校6年)

自分のキャンバスは自分で塗る

松本 斗亜 (佐用中学校3年)

皆一人じゃない

小寺 竜雅 (上月中中学校2年)

### 人権啓発作品展

●日時 11/15 (火) ~ 11/27 (日) 9:00 ~ 17:00

●場所 さよう文化情報センター ホワイエ・ギャラリー

一人一人を大切に

上月小学校6年 古本 真央

私には、家族や友だちなど、大切な人がたくさんいます。みんなと一緒にいると、とても楽しくうれしいです。大変なことがあっても家族や友だちがはげましてくれたり、応援してくれたりするととても心強いです。私の家族は、私が困っている時に、手伝ってくれたり助けてくれます。悩んでいる時にはやさしい言葉ではげまして、応援してくれます。相談できる人がいるのは本当に幸せだと思います。世界中の人みんなにも私のように大切な家族や友だちがいると思います。

私は、一人一人が大切にされる世の中になるといいと思います。そのためにはまず命を大切にしたいです。ニュースを見ていると戦争やいろいろな事件や事故で命を落とすニュースをよく目にします。命はとても大切で一人に一つしかありません。みんなその命を大切に生きようと思っています。私は、世界中のみんなが命を大切にして、理解し合い、協力できる世の中であってほしいと思います。

みんなが理解し合うためには、相手の気持ちを考えて行動することが大切だと思います。私は今年6年生になり、新入生歓迎集会や縦割り班遊び、運動会の練習など低学年と一緒に過ごしたり、会を進行したりすることが多くありました。その時、低学年の子たちに私の伝えたいことが伝わらず、また低学年の子たちが何を考えているかわからず困ったことがありました。そこで、私はしゃがんで低学年と目線を合わせました。目線が変わるだけでも見える景色は違います。私は小さかった時のことを思い出し、低学年の気持ちになってどうすればわかってもらえるかを考えました。この時、低学年にも自分の意見があることに気づき、私も昔、同じように上級生を困らせたのだらうと思いました。そこで、低学年の気持ちになって話しかけてみるとうまく伝わりました。相手の気持ちを考えて相手の立場に立って行動することの大切さがよくわかりました。これからは、困っている人や助けを求めている人に対して、その人を自分に置きかえて手をさしのべたり、親切にしたりしていきたいと思っています。

家族や友だち、地域の人たちに元気よくあいさつをしたり、感謝の気持ちを素直に伝えたりすることも大切だと思います。以前、私は人に感謝の気持ちを伝えるのは、少し照れくさくて苦手でした。でもある年の父の日、私は父に感謝の手紙を書きました。後で母から、父がこの手紙を読んでとても喜んでいたと聞き、私もうれしくなりました。自分が他の人のためにがんばった時、「ありがとう。」と言われるだけで、努力がむくわれたような気持ちになります。だから「ありがとう。」という言葉はとても大切だと思います。

みんなが意識して一人一人に優しい世界にしていこうと思って行動すれば、どんどんよい方向に変わっていくと思います。私もあいさつや感謝の言葉、身近な人への親切など、自分にできるところから行動していきたいと思っています。

## 幸せの意味

三日月中学校3年 廣瀬 菜々美

「おぎゃー。おぎゃー。」

2018年3月16日6時33分。私の妹が産まれた。この瞬間は家族にとってとても大事で、私の人生を変えるきっかけとなった。

妹の分娩に私は立ち会わせてもらった。1時に父に起こされた時からずっと緊張していた。分娩室に入った時には、もうお産は始まっていて、母は酸素マスクをしていた。その姿を見た時、「死んでしまうのではないか」という不安につつまれ、今にも涙が溢れそうだった。でも、私の母は痛みと30分ほど戦い抜き、母子ともに健康だった。陣痛は我慢しきれないくらい痛いはずなのに、私が「痛かった？」と聞くと、「そりゃ痛かったよ。でもあの痛みは、幸せの痛みだ。」と言っていた。私はこれを聞いたとき、とても幸せだなと思った。母と妹は私に今までで一番大きな感動を与え、命の大切さを教えてくれた。私はこの日流した涙を一生忘れない。私を産んだ時もこのように命がけだったのかと思うと、改めて母を大事にしようと思えた。

母は看護師をしていて忙しい。それでも母は、家族のために毎日おいしいご飯を作ってくれる。そして、みんなに自慢したいほど母のご飯はおいしい。

また、朝は一番に起きて弁当を作り、学校に遅れないように毎日起こしてくれる。小さいころまでは、起こすことなんか簡単だし、一声かけるだけだと思っていた。しかし、母が起こしてくれるのは、母からの愛情だと気づいてからは、今までの自分の行動に反省し、最近は起こされたら二度寝などせずすっと起きるように心がけている。私は、母からたくさんの愛情を注がれて育っているということを教わった。よく小さい子に、

「大きくなったら何になりたい？」

と聞くと、

「お母さんみたいになる！」

と答える子が多い。私は妹がそれを言うとかわいいなと思い笑っていたが、今考えると母を尊敬して当たり前だと思った。実際、私は母のような母になりたいと思っている。母を尊敬することはとてもいいことで、幸せの秘訣なのかなと思った。

でも、私はいつも思う。家庭を作り上げているのは母だけではなく、父も深く関わっているのに、なぜ母への感謝を伝えることが多いのかと。

私の父は習い事や部活で試合があったら必ず応援をしに来てくれる。そのおかげで私はこれまでたくさんの良い結果を残してこられた。私は、父に応援されると頑張れる。父は運動神経がいいので、初めてするスポーツでも上手にできてしまう。私はテニス部に入っているが、父はテニスの経験がなかった。でも、私のためを思ってユーチューブでたくさんコツをつかみ、上手く私に解説してくれた。そのおかげで、私はカットサーブを打つことができるようになった。私は、父が熱心で夢を応援してくれる人で良かったなと思っている。私は父の日に

「ありがとう。」

と伝えた。すると父は、

「パパにとっては自分が叶えたい夢を叶えてくれればそれが親孝行や。」

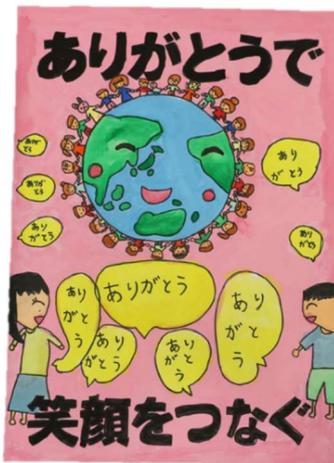
と言っていた。これを聞いて私は、絶対叶えてやると思うことができた。よく思春期などで父を嫌う話を聞くが、私は真逆だ。私の自慢の父であり、私は父のことが大好きだ。

私の両親は努力家代表の母と熱心代表の父。この二人は私の親で本当に良かったと心の底から思っている。時にはつらい時もあるだろうけど、家族で支え合い、これからも幸せな家庭を築いていきたい。そして、「助産師になる」という夢を叶え、父が言っていた親孝行をしたい。

2022年 佐用町人権啓発入賞作品（ポスターの部）（敬称略）



南光保育園 5歳児



蔭山 莉緒（佐用小学校6年）



福岡 莉子（上月小学校6年）



松本 斗垂（佐用中学校3年）



小寺 竜雅（上月中学校2年）

第74回 人権週間 12月4日（日）～10日（土）

**「誰か」のこと じゃない。**

（みんなの人権110番 0570-003-110）